

シナリオ 大志の果て : 日下部太郎・グリフィス

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-07-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 坂手, 一成 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/00029086

シナリオの経緯とお礼・目録

シナリオ『大志の果て―日下部太郎 & W・E・グリフィス』は、幕末、福井藩で最初の海外留学生・日下部太郎と、アメリカ・ラトガース大学で彼の2年年上の友人として親交を深め、後にその縁で来日し福井藩校で理化学を教えたウィリアム・エリオット・グリフィスの交友を描いたものです。

平成二十三年（二〇一一）十二月、福井大学附属図書館主催で開催の「W・E・グリフィス来福百四十年記念事業お雇い外国人教師グリフィス展」において、著者の坂手^{さかて}一成^{かずなり}さんから託されました。

日下部とグリフィスの交流をきっかけに、昭和五十七年（一九八二）ラトガース大学のあるニューブランズウィック市と福井市とが姉妹都市となり、それを記念して二人の生涯を描いた『よみがえる心のかげ橋』（福井市教育委員会・福井市立郷土歴史博物館）が発行されましたが、その編著者である坂手さんは、それをさらにシナリオとして書き起こされたのでした。

このシナリオについてグリフィス研究家の第一人者である越前市の山下英一先生に読んでいただいたところ、これは日下部太郎の生涯を書き上げた作品であり貴重である。また、子供さんや大人の方にも分かり易い。是非、本にしてはどうかと助言をいただきました。

そこで、なんとか出版できないか、（財）日下部・グリフィス学術・文化交流基金やグリフィス記念館で検討していただきましたが、残念ながら実現には至りませんでした。その間に坂手さんは、永年の学校教育に携わられた功績が認められて瑞宝双光章を授与され、令和二年八十三歳でお亡くなりになりました。

出版という形には至りませんでした。それにふさわしい力作を、なんとか世に出したいと、前職である福井大学附属図書館に持ち込んだところ、グリフィス関連資料として福井大学リポジトリに登録・公開、附属図書館ホームページのグリフィス・コレクションにも掲載することとなり、ひとまず世に出る形となりました。

まずは、ご尊父の大切な遺稿を快くご寄贈くださいましたご遺族の長男である坂手成雄様のご理解に厚く御礼申し上げます。

また、ご相談させていただきました（財）日下部・グリフィス学術交流基金の細谷龍平理事長様、グリフィス記念館の北村幸一様、福井市立郷土歴史博物館の山田裕輝様には大変お世話になりました。

最後に、本公開にあたり寄贈の受領から校正に至るまでご尽力いただきました福井大学附属図書館の吉野孝博情報企画課長様、松田知子主査様、石丸圭美様に厚く御礼申し上げます。

令和四年六月二十五日

福井大学附属図書館グリフィス来福140周年記念事業編集委員会委員

元福井大学附属図書館職員 安野辰己

寄贈目録

- 一、 シナリオ「大志の果て」 初稿 一冊
- 一、 シナリオ「大志の果て」 最終稿 一冊
- 一、 よみがえる心の架け橋 手稿 一冊
- 一、 よみがえる心のかけ橋 冊子 一冊

令和四年六月二十五日

福井大学附属図書館長殿

寄贈者 坂手成雄